【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成20年12月18日(2008.12.18)

【公開番号】特開2007-274125(P2007-274125A)
【公開日】平成19年10月18日(2007.10.18)
【年通号数】公開・登録公報2007-040
【出願番号】特願2006-94700(P2006-94700)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　7/173　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　5/44　(2006.01)
Ｈ０４Ｍ　1/00　(2006.01)
Ｈ０４Ｍ　1/57　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　5/76　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　5/91　(2006.01)
Ｈ０４Ｈ　60/27　(2008.01)
Ｈ０４Ｂ　1/16　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　7/173　６３０
Ｈ０４Ｎ　5/44　Ｚ
Ｈ０４Ｍ　1/00　Ｖ
Ｈ０４Ｍ　1/00　Ｋ
Ｈ０４Ｍ　1/57
Ｈ０４Ｎ　5/76　Ｚ
Ｈ０４Ｎ　5/91　Ｚ
Ｈ０４Ｈ　1/00　６２５
Ｈ０４Ｂ　1/16　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成20年10月31日(2008.10.31)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
放送信号を受信する放送受信手段と、
自己への呼び出しを検出する検出手段と、
この検出手段により呼び出しが検出されると、前記放送受信手段による放送信号の受信中か否かを判断する放送受信判断手段と、
前記検出手段による呼び出し検出に対し、応答操作が行われたか否かを判断する応答判断手段と、
前記放送受信判断手段により放送信号の受信中であると判断され、前記応答判断手段により応答操作が行われなかったと判断されると、前記放送受信手段により受信された放送信号に基づく放送内容と、前記呼び出し検出に対し応答操作が行われなかった旨とを関連付けて記憶する記憶制御手段と、
を備えることを特徴とする放送受信装置。
【請求項２】
前記検出手段によって自己への呼び出しが検出されると、この呼び出し元を特定する情

報を取得する情報取得手段を更に備え、
前記記憶制御手段は更に、前記応答判断手段により応答操作が行われなかったと判断された場合、前記情報取得手段によって取得された呼び出し元を特定する情報を、前記受信された放送信号に基づく放送内容に関連付けて記憶することを特徴とする請求項１に記載の放送受信装置。
【請求項３】
前記放送受信手段によって受信された放送信号に基づく放送内容を記録する記録制御手段を更に備えるとともに、前記記憶制御手段は更に、前記応答判断手段により応答操作が行われなかったと判断された場合、前記呼び出し検出に対し応答操作が行われなかった旨と、前記記録制御手段によって記録された放送内容とを対応付けて記憶し、
この記録制御手段によって記録された放送内容の表示を指示する指示手段と、
この指示手段により前記記録された放送内容の表示が指示されると、前記記憶制御手段によって記憶された内容を表示する表示手段と、
を更に備えることを特徴とする請求項１または２に記載の放送受信装置。
【請求項４】
前記検出手段による呼び出し検出時の報知内容を設定する設定手段と、
前記放送受信手段により受信される放送信号に基づく放送内容を、受信とともに逐次出力する出力手段と、
前記出力手段による出力中に前記検出手段により呼び出しが検出されると、前記設定手段により設定された報知内容に基づいて報知を行う報知制御手段と、
を更に備え、
前記記録制御手段は、前記設定手段により設定された報知内容に基づいて、前記受信された放送信号に基づく放送内容を記録することを特徴とする請求項３に記載の放送受信装置。
【請求項５】
前記記憶制御手段は、前記設定手段により設定された報知内容に基づいて、前記記録制御手段によって記録された放送内容の再生を制御するための再生制御情報を、前記放送内容と関連付けて記憶することを特徴とする請求項４に記載の放送受信装置。
【請求項６】
前記設定手段が設定する報知内容とは、音声出力による報知の禁止であることを特徴とする請求項４または５に記載の放送受信装置。
【請求項７】
放送信号を受信する放送受信ステップと、
自己への呼び出しを検出する検出ステップと、
この検出ステップにより呼び出しが検出されると、前記放送受信ステップによる放送信号の受信中か否かを判断する放送受信判断ステップと、
前記検出ステップによる呼び出し検出に対し、応答操作が行われたか否かを判断する応答判断ステップと、
前記放送受信判断ステップにより放送信号の受信中であると判断され、前記応答判断ステップにより応答操作が行われなかったと判断されると、前記放送受信ステップにより受信された放送信号に基づく放送内容と、前記呼び出し検出に対し応答操作が行われなかった旨とを関連付けて記憶する記憶制御ステップと、
からなることを特徴とする放送受信方法。
【請求項８】
コンピュータを、
放送信号を受信する放送受信手段、
自己への呼び出しを検出する検出手段、
この検出手段により呼び出しが検出されると、前記放送受信手段による放送信号の受信中か否かを判断する放送受信判断手段、
前記検出手段による呼び出し検出に対し、応答操作が行われたか否かを判断する応答判

断手段、
前記放送受信判断手段により放送信号の受信中であると判断され、前記応答判断手段により応答操作が行われなかったと判断されると、前記放送受信手段により受信された放送信号に基づく放送内容と、前記呼び出し検出に対し応答操作が行われなかった旨とを関連付けて記憶する記憶制御手段、
として機能させることを特徴とする放送受信プログラム。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
そこで、本発明は上述の課題を解決するためになされたものであり、その目的とするところは、放送視聴中に着信があり、この着信について応答操作をしなかった場合でも、ユーザが確認できる放送受信装置を提供することにある。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
上記課題を解決するために、請求項１に記載の発明は、放送信号を受信する放送受信手段と、自己への呼び出しを検出する検出手段と、この検出手段により呼び出しが検出されると、前記放送受信手段による放送信号の受信中か否かを判断する放送受信判断手段と、前記検出手段による呼び出し検出に対し、応答操作が行われたか否かを判断する応答判断手段と、前記放送受信判断手段により放送信号の受信中であると判断され、前記応答判断手段により応答操作が行われなかったと判断されると、前記放送受信手段により受信された放送信号に基づく放送内容と、前記呼び出し検出に対し応答操作が行われなかった旨とを関連付けて記憶する記憶制御手段とを備えることを特徴とする。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
請求項２に記載の発明は、請求項１に記載の発明において、前記検出手段によって自己への呼び出しが検出されると、この呼び出し元を特定する情報を取得する情報取得手段を更に備え、前記記憶制御手段は更に、前記応答判断手段により応答操作が行われなかったと判断された場合、前記情報取得手段によって取得された呼び出し元を特定する情報を、前記受信された放送信号に基づく放送内容に関連付けて記憶することを特徴とする。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
請求項３に記載の発明は、請求項１または２に記載の発明において、前記放送受信手段によって受信された放送信号に基づく放送内容を記録する記録制御手段を更に備えるとともに、前記記憶制御手段は更に、前記応答判断手段により応答操作が行われなかったと判断された場合、前記呼び出し検出に対し応答操作が行われなかった旨と、前記記録制御手

段によって記録された放送内容とを対応付けて記憶し、この記録制御手段によって記録された放送内容の表示を指示する指示手段と、この指示手段により前記記録された放送内容の表示が指示されると、前記記憶制御手段によって記憶された内容を表示する表示手段とを更に備えることを特徴とする。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
請求項４に記載の発明は、請求項３に記載の発明において、前記検出手段による呼び出し検出時の報知内容を設定する設定手段と、前記放送受信手段により受信される放送信号に基づく放送内容を、受信とともに逐次出力する出力手段と、前記出力手段による出力中に前記検出手段により呼び出しが検出されると、前記設定手段により設定された報知内容に基づいて報知を行う報知制御手段と、を更に備え、前記記録制御手段は、前記設定手段により設定された報知内容に基づいて、前記受信された放送信号に基づく放送内容を記録することを特徴とする。

【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
請求項５に記載の発明は、請求項４に記載の発明において、前記記憶制御手段は、前記設定手段により設定された報知内容に基づいて、前記記録制御手段によって記録された放送内容の再生を制御するための再生制御情報を、前記放送内容と関連付けて記憶することを特徴とする。

【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
請求項６に記載の発明は、請求項４または５に記載の発明において、前記設定手段が設定する報知内容とは、音声出力による報知の禁止であることを特徴とする。

【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
請求項７に記載の発明は、放送信号を受信する放送受信ステップと、自己への呼び出しを検出する検出ステップと、この検出ステップにより呼び出しが検出されると、前記放送受信ステップによる放送信号の受信中か否かを判断する放送受信判断ステップと、前記検出ステップによる呼び出し検出に対し、応答操作が行われたか否かを判断する応答判断ステップと、前記放送受信判断ステップにより放送信号の受信中であると判断され、前記応答判断ステップにより応答操作が行われなかったと判断されると、前記放送受信ステップにより受信された放送信号に基づく放送内容と、前記呼び出し検出に対し応答操作が行われなかった旨とを関連付けて記憶する記憶制御ステップとからなることを特徴とする。

【手続補正１０】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
請求項８に記載の発明は、コンピュータを、放送信号を受信する放送受信手段、自己への呼び出しを検出する検出手段、この検出手段により呼び出しが検出されると、前記放送受信手段による放送信号の受信中か否かを判断する放送受信判断手段、前記検出手段による呼び出し検出に対し、応答操作が行われたか否かを判断する応答判断手段、前記放送受信判断手段により放送信号の受信中であると判断され、前記応答判断手段により応答操作が行われなかったと判断されると、前記放送受信手段により受信された放送信号に基づく放送内容と、前記呼び出し検出に対し応答操作が行われなかった旨とを関連付けて記憶する記憶制御手段として機能させることを特徴とする。
【手続補正１１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
本発明によれば、放送視聴中に着信があり、この着信について応答操作をしなかった場合でも、視聴時の呼び出しの有無をユーザに認識させることができる。